

2018年度 環境に関する市民意識調査の結果（概要）

横浜市では、2018年10月に18歳以上の市民3,000人を対象に環境に関する意識調査を実施しました。調査結果は、環境管理計画や市の中期4か年計画に掲げた目標・施策の進捗評価や環境施策の基礎資料として活用します。

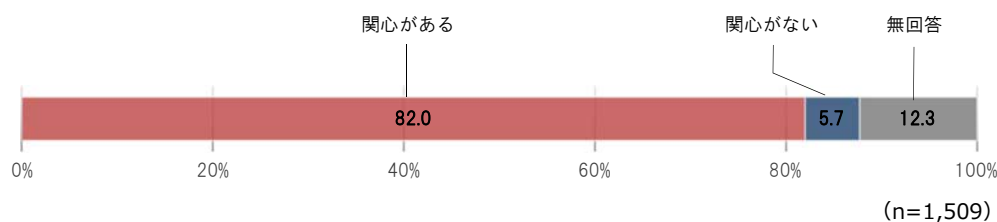
◆調査結果

1 環境や環境の取組への関心について

環境や環境の取組に関心があるか聞いたところ、「関心がある」と答えた人の割合が82.0%、「関心がない」と答えた人の割合が5.7%となっています。

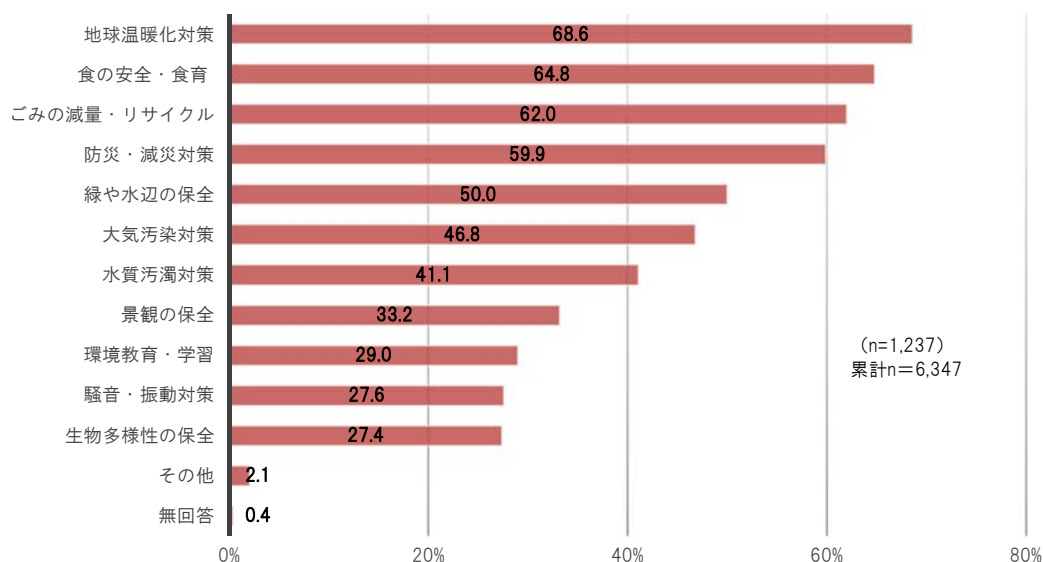
環境や環境の取組に「関心がある」と回答した人に対して、関心がある項目を聞いたところ、「地球温暖化対策」や「食の安全・食育」、「ごみの減量・リサイクル」、「防災・減災対策」への関心が比較的高くなっています。

問1 あなたは環境や環境の取組に関心がありますか



問1-A 関心がある項目を教えてください

(環境や環境の取組に「関心がある」と答えた人のみ、複数回答)

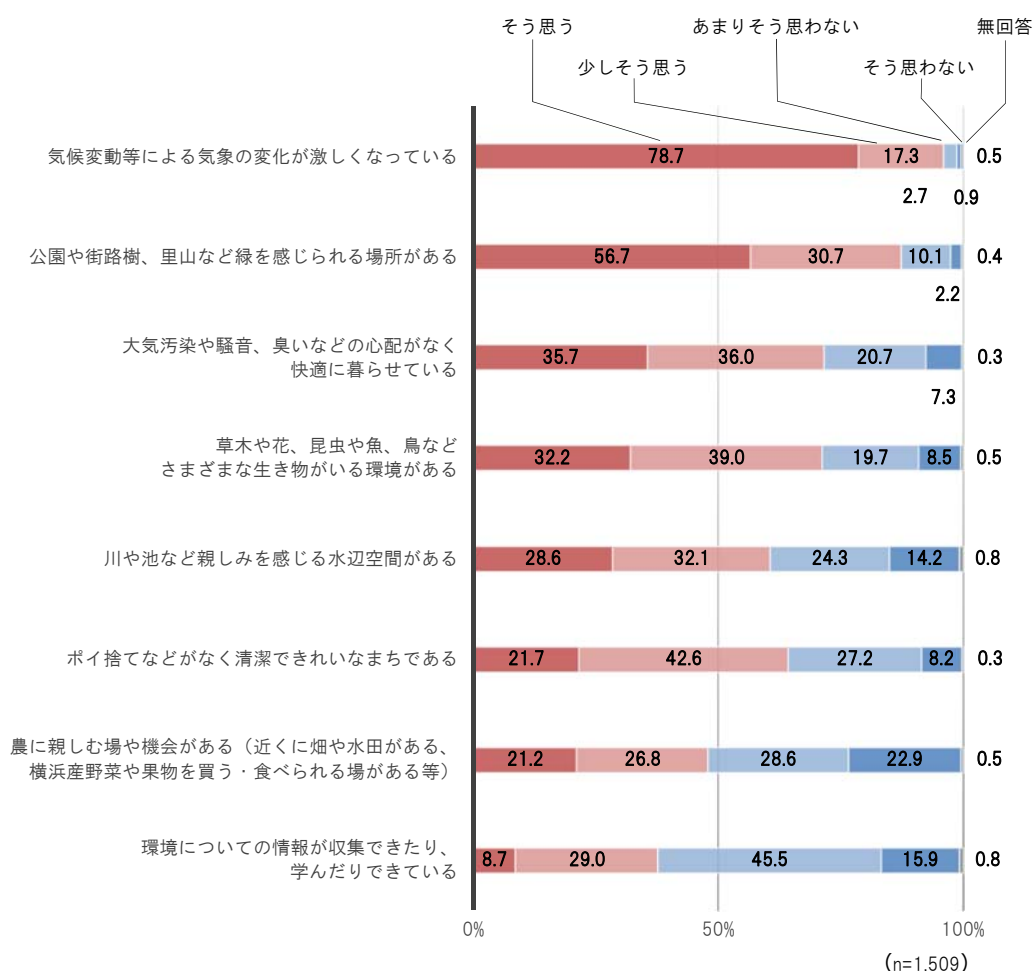


2 身のまわりの環境について

身のまわりの環境についてどのように感じているかの設問では、「気候変動による気象変化が激しくなっていると感じる」について「そう思う」、「少しそう思う」と答えた人の割合が合わせて96.0%と最も高い割合でした。

「公園や街路樹、里山など緑を感じられる場所がある」、「大気汚染や騒音、臭いなどの心配がなく快適に暮らせている」、「草木や花、昆虫や魚、鳥などさまざまな生き物がいる環境がある」については、いずれの項目も「そう思う」と「少しそう思う」が合わせて7割を超えるなど、おおむね良いと感じている市民の割合が高くなっています。

問4 あなたは次にあげる身のまわりの環境についてどのように感じていますか

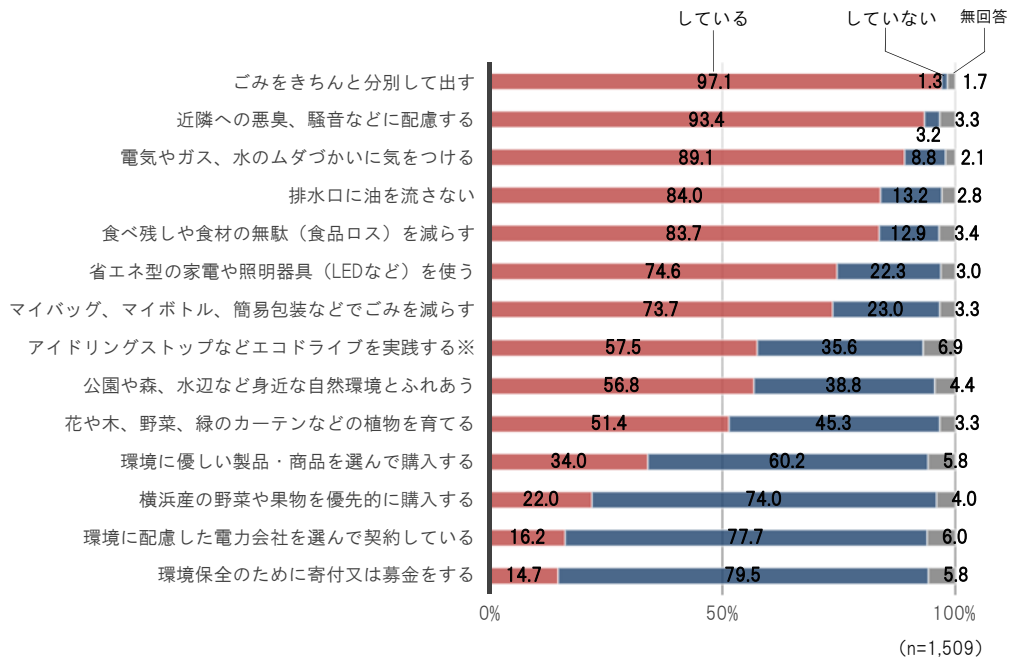


3 環境にやさしい行動 (= 環境行動) の実践状況について

選択肢にあげた 14 の環境行動のうち、「ごみをきちんと分別して出す」や「近隣への悪臭、騒音などに配慮する」、「電気やガス、水のムダづかいに気をつける」といった暮らしの中で日常的に取り組める環境行動は約 9 割の人が実践していると回答しました。一方で、「環境に配慮した電力会社と契約している」や「環境保全のために寄付又は募金をする」という、より自発的な選択が必要な行動については、他に比べ実践率が低い状況です。

環境行動を始めたきっかけとしては「環境を守ることになるから」が 69.2%で最も多くなっており、次いで「節約になるから」(53.5%) となっています。

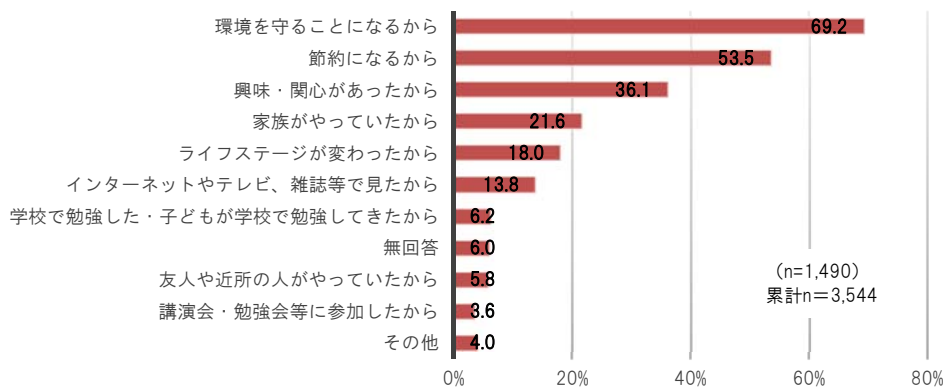
問2 あなたは普段、次にあげる個人でできる環境行動をしていますか



※「アイドリングストップなどエコドライブを実践する」は、「運転しない」人を除いた結果を掲載している (n=941)

問2 - A 環境行動を始めたきっかけを教えてください

(選択肢にあげた 14 の環境行動について一つ以上実践「している」人が、複数回答)



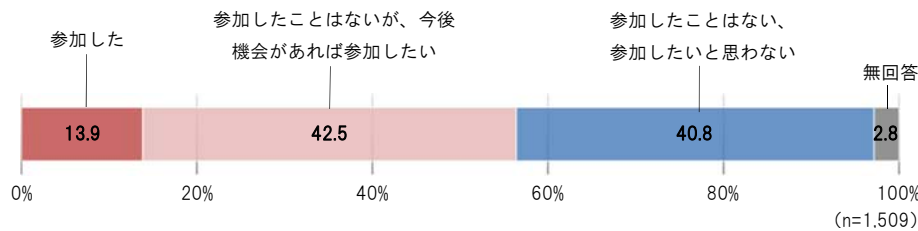
4 地域の環境活動や環境活動団体への参加について

ここ1年間に地域の環境活動に参加したことがあるか聞いたところ、1年以内に「参加した」人が13.9%、「参加したことはないが、機会があれば参加したい」人が42.5%でした。

「参加した」もしくは「参加したことはないが、機会があれば参加したい」と回答した人に対し、参加した活動・参加してみたい活動を聞いたところ、「地域の清掃・美化活動」が51.4%で最も多くなっています。

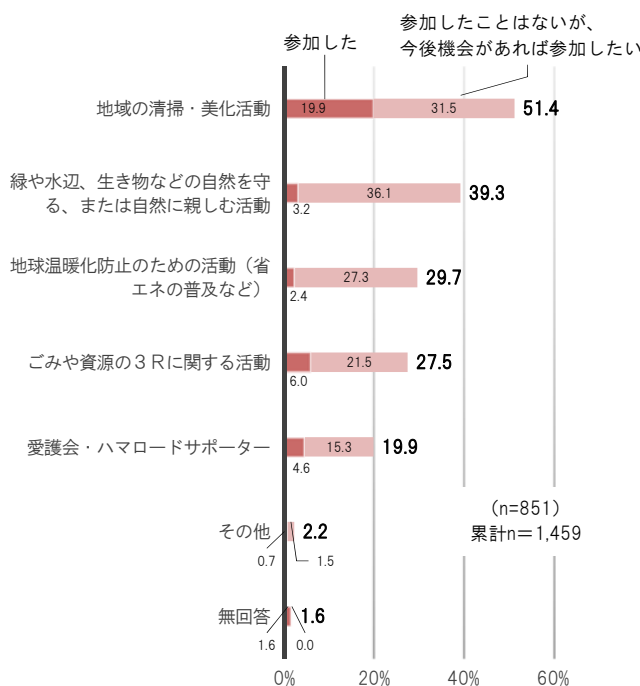
「参加した」人が環境活動に参加したきっかけとしては、「環境を守ることになるから」が56.9%で最も多く、次いで「興味・関心があったから」、「友人や近所の人がやっていたから」と続いています。

問3 あなたは、ここ1年間に、地域の環境活動や環境活動団体に参加したことがありますか



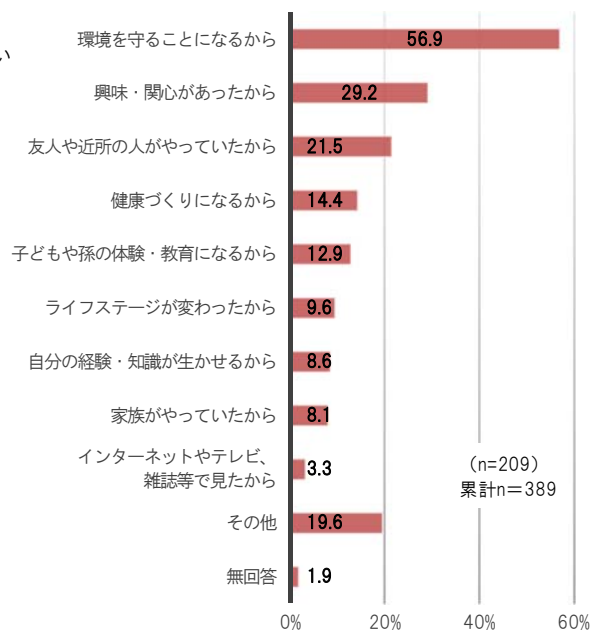
問3-A どのような活動に参加しましたか、もしくは参加してみたいですか

【問3で「参加した」、「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」と答えた方のみ、複数回答】



問3-B 地域の環境活動や環境活動団体に参加したきっかけを教えてください

【問3で「参加した」と答えた方のみ、複数回答】



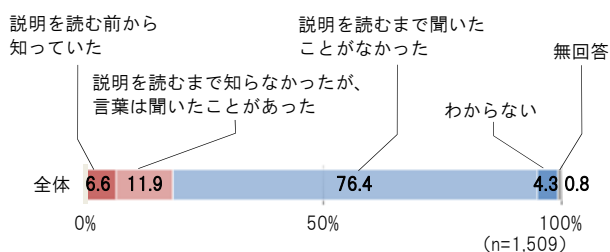
5 市の環境施策の認知状況について

市の環境施策の認知、普及啓発を兼ねて、「Zero Carbon Yokohama (ゼロカーボンヨコハマ)」、「生物多様性」それぞれの簡単な説明を読んでもらった上で、各項目の認知状況を聞きました。

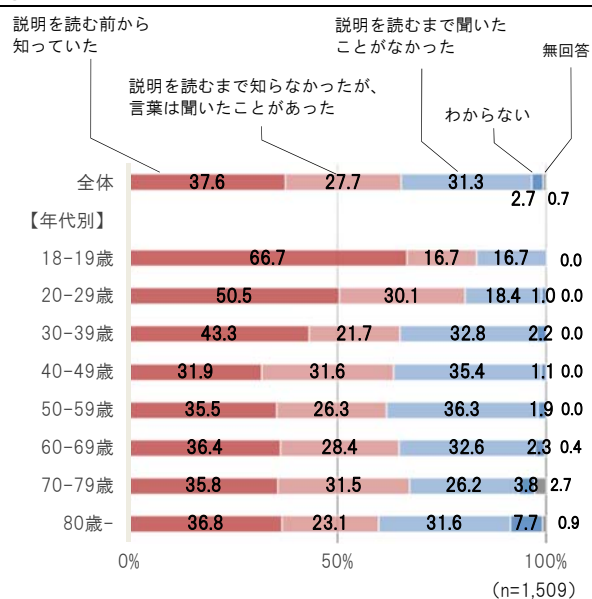
横浜市の温暖化対策として、2018 年度に新たに打ち出した「今世紀後半のできるだけ早い時期における温室効果ガスの実質排出量ゼロ」を目指す「Zero Carbon Yokohama」については、施策の意味まで知っているという人は 6.6%でした。

地球温暖化対策とあわせて重点施策としている「生物多様性」の言葉の意味は 37.6%の人が「説明を読む前から知っていた」と回答しました。年代別にみると、18～19 歳及び 20～29 歳で「知っていた」人の割合がそれぞれ 66.7%、50.5%となっており、若い世代の認知度が比較的高くなっています。「生物多様性の恵み」として知っているものとしては、「水や空気をきれいに保つ」、「植物の光合成により酸素を供給する」、「森が洪水・土砂災害を防止する」がそれぞれ 6 割を超えています。「浸水（内水・洪水）ハザードマップ」については 79.7%がマップの存在を知っていると回答しており、広く認知されている一方、知っているが実際のマップを見たことはないと答えた人は 30.4%となっています。

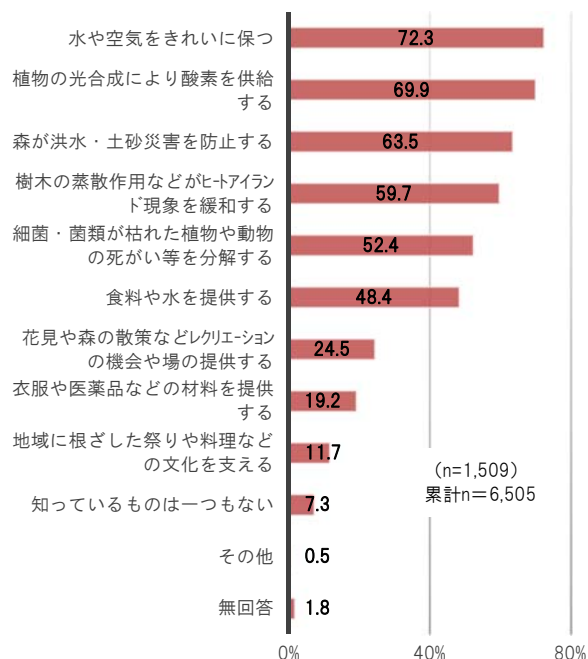
問5 「Zero Carbon Yokohama」を掲げて温暖化対策を推進していることを知っていましたか



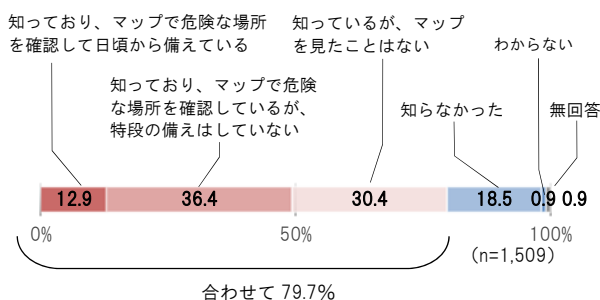
問6 「生物多様性」という言葉の意味を知っていましたか



問7 生物多様性の恵みとして知っているものはどれですか（複数回答）



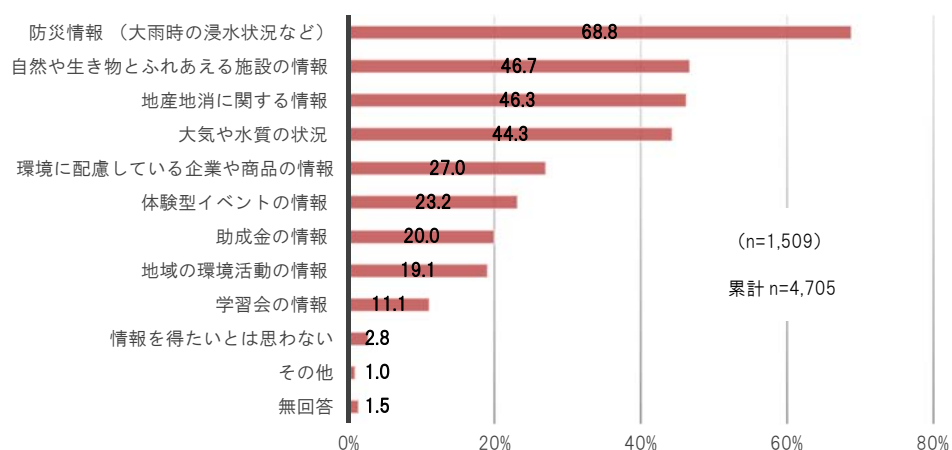
問8 「浸水（内水・洪水）ハザードマップ」を知っていましたか



6 環境に関する情報について

環境に関するどのような情報を得たいかについて聞いたところ、「防災情報（大雨時の浸水状況など）」と答えた人の割合が 68.8%と最も多くなっています。他にも「自然や生き物とふれあえる施設の情報（公園、動物園、市民の森、川や海の水辺など）」、「地産地消に関する情報（横浜産の野菜や果物を買う・食べる場所等）」、「大気や水質の状況（PM2.5 の測定状況や河川や海の水質等）」など、生活に身近な情報を選択した人が多くなっています。

問9 あなたは環境に関するどのような情報を得たいと思いますか（複数回答）

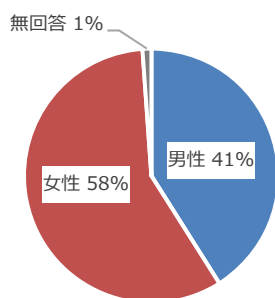


◆調査概要

- **期間**：2018年10月5日（金）～10月31日（水）
- **対象**：18歳以上の市民3,000人（住民基本台帳から無作為抽出）
- **方法**：郵送による無記名調査
- **回答**：1,509人（回収率 50.3 %）

回答者の内訳

■性別



■年代別

